

第15回 (仮称) 岩槻人形博物館開設準備委員会 会議録 (要旨)

日 時 平成29年7月6日 (木) 午後2時～4時

場 所 さいたま市大宮区役所3階特別会議室

委員出欠 (敬称略)

出席委員：6名

林 宏一 委員長 (元東京家政大学 教授) / 分野：美術史
是澤 博昭 副委員長 (大妻女子大学 准教授) / 分野：人形文化史
大越 久子 委員 (埼玉県立近代美術館 主席学芸主幹) / 分野：美術史
加藤 三郎 委員 (NPO法人岩槻まちづくり市民協議会相談役) / 分野：市民団体
伴戸 武三 委員 (岩槻人形協同組合専務理事) / 分野：人形
内藤 和夫 委員 (さいたま市岩槻区長) / 分野：行政

欠席委員：2名

村上 和夫 委員 (立教大学大学院 教授) / 分野：観光学
田島 夏与 委員 (立教大学 教授) / 分野：都市経済学

事務局 (敬称略)

蓬田 潔 (スポーツ文化局 局長)
大西 起由 (スポーツ文化局 文化部 部長)
川田 泰則 (スポーツ文化局 文化部 文化振興課岩槻人形博物館開設準備室 室長)
五月女 正人 (スポーツ文化局 文化部 文化振興課岩槻人形博物館開設準備室 参与)
小松 寛典 (スポーツ文化局 文化部 文化振興課岩槻人形博物館開設準備室 主幹)
山本 直子 (スポーツ文化局 文化部 文化振興課岩槻人形博物館開設準備室 主査)
菅野 武史 (スポーツ文化局 文化部 文化振興課岩槻人形博物館開設準備室 主査)
菅原 千華 (スポーツ文化局 文化部 文化振興課岩槻人形博物館開設準備室 学芸員)
平井 美江 (スポーツ文化局 文化部 文化振興課岩槻人形博物館開設準備室 学芸員)
岩田 明日香 (スポーツ文化局 文化部 文化振興課岩槻人形博物館開設準備室 学芸員)

- 次 第 1 開会
2 あいさつ
3 議事
4 その他
5 閉会

配布資料 次第

資料1 資料の調査・保存とプレ事業について

資料2 地域連携について

- 1 開会 (司会：事務局／五月女参与)
- 2 あいさつ (蓬田局長)
- 3 議事 (委員会)

事務局より

- ・本会議が「さいたま市附属機関等に関する要綱」第7条の規定により公開し、公開方法は「さいたま市附属機関等の会議の公開に関する要綱」第5条第1項の規定により、会議の傍聴を希望する者に、会議の傍聴を認めることにより行われること。
などについて説明を行い、了承された。

【議事内容】

林委員長：ただ今から、第15回(仮称)岩槻人形博物館開設準備委員会を開会します。

事務局は、傍聴者の案内をお願いします。

事務局：本日の委員会の傍聴につきましては、一般傍聴者、報道関係者共にゼロでございます。

(1) 報告「(仮称)岩槻人形博物館の進捗状況について」

林委員長：それでは、「(1)報告」から入りたいと思います。「(1)報告(仮称)岩槻人形博物館の進捗状況について」事務局の方から報告をお願いします。

事務局より、施設整備の概要、スケジュール、展示、名称について説明が行われる。

林委員長：事務局の方から進捗状況について4項目で説明が行われました。一括で御質問を受けるのも良いのですが、項目が多いので、「1.施設整備について」「2.スケジュールについて」について、委員の方から御発言はございますか。

それでは、委員長からの確認ですが、今度の建設を担当する戸田・松永JVは基準を厳しく審査され、手続きを経ていると思うのですが、その点の信頼度はどうですか。

事務局：まず、デザインビルドという方式で採用しており、博物館・美術館を設計した、施工した実績があるということで選ばれています。それ以外につきましては、他の施設の建設と同様の審査基準としています。総合評価であったため、デザインビルドの審査委員会を、庁内の委員で構成しました。

総合評価の場合、2名の有識者の意見を聞くことになるため、東洋大学とものづくり大学の教授お二人に、御意見を聞いたうえで委員会として決めていきました。

それから、実施設計・施工時のモニタリングが必要であり、今年度新たに準備室に配置された、建築と設備の専門知識がある2名の職員が工事監理を行ない、併せて基本設計を行った東畑建築設計事務所とともにモニタリングを行います。具体的には、実施設計の図面が要求水準書に合っているかどうか、承諾していくという形になります。まず選んだ時点でのチェック、次にモニタリングを行う体制、その点をしっかりとやっていくものです。

林委員長：施工監理は東畑建築事務所が行うのですか。

事務局：市が行い、モニタリングのコンサルを東畑建築事務所が行います。東畑は市側のコンサルに入っています。

林委員長：永久施設という形で建設する必要があるわけですから、十分に、今後の進行管理、品質管理などの点に心を配っていただく必要があると思います。この二つの企業は博物館施設等を建設した経験はありますか。

事務局：幹事の戸田建設は、数々の博物館・美術館の施工を行っています。松永建設の方は市内業者で、博物館建設の経験はありませんが、文化庁の重要文化財公開承認施設の認定を得るために、基本設計段階から東畑と文化庁を訪問し、その都度文化庁の確認をとりながら進めています。

林委員長：ありがとうございます。その他委員の方々御意見はございますか。

大越委員：内装の設計はどこが受け持つのですか。それも戸田・松永 JV ですか。

事務局：展示造作を除き戸田・松永が施工します。ただ、内装等の仕様につきましても、市が定める要求水準書のなかで、詳細に規定しております。それが適正に使用されているかどうかを確認していくことになります。

林委員長：では「3. 展示について」はどうでしょうか。展示についても、これまで長年検討してきた展示プランをベースにして、修正しながらここに至っており、基本的な当初の考え方というのは継続されていると考えています。

収蔵品についても、西澤笛畝コレクション以外に、浅原革世コレクションをさいたま市の取り組みで、何とか確保することができました。展示資料に関しては、内容、質、あるいは量というものを、コレクションすることができたと思います。そこで、あとはどのように展示されるのかということですね。展示内容についてはよろしいですか。

(特に意見なし)

林委員長：また、「4. (仮称) 岩槻人形博物館の名称について」は、事務局から説明があったとおり、最終的には市の方で決めるということですが、委員の方々のお考えはいかがですか。もし御意見がありましたら、市当局に参考意見としてお伝えすることができるのではないかと思います。

長年検討してきた内容ですから、「岩槻」、「人形」、「博物館」という単語は欠かせないということでした。大越委員いかがでしょうか。

大越委員：愛称は「にんぱく」になるのかなと思いながら聞いていました。

埼玉県に住む方で、岩槻という地名を知らない人はまずいないと思うのですが、全国展開ということを考えると知名度がいまひとつで、ひらがなではどこにある施設なのか伝わりにくいのではないかという気がしました。「いわつき」だと、別の文字も簡単に浮かんでしまいますし、漢字の方が良いと私は思います。私は埼玉県出身ではないので、率直な感想です。

加藤委員：私は、外国の方と接する機会があり、外国の方はひらがなに抵抗があるのではないかと感じています。日本の文化を勉強する時に、古文書等にひらがながあると入りにくいと。

漢字だと、漢字をわかっている方はどうやら見当がつくようです。ひらがなを固有名詞に使われることに非常に抵抗があります。できれば岩槻というのは漢字の方が良いのではないかと思います。

林委員長：確かに、この博物館は、国内だけでなく、広い世界に向けた情報発信も大きな目標の一つになっています。そういった意味で今の加藤委員、大越委員の御意見は重要な御指摘だと思います。では、伴戸委員はいかがですか。

伴戸委員：今、中国、韓国など、インバウンドの方が多いですね。その方々にわかりやすいのは漢字ではないでしょうか。個人的な意見ですが、「さいたま市岩槻人形博物館」のように漢字表記が良いと思います。それから、洒落た名前ではなく、直球でいった方が良いと思います。

林委員長：是澤副委員長は長く携わっていただいておりますが、いかがでしょうか。

是澤副委員長：各委員の御意見はごもっともだと思います。しかし、漢字だと地場産業としての「岩槻人形」をそのまま連想されることで、ローカルな施設としてかえって誤解を生むこともあるような気がします。この博物館は、全国でも人形を中心とする唯一の公立の博物館であり、盆栽と同じように、人形で世界に向けて発信するという立場をとると考えた時に、ひらがなの方がよりグローバルになるのではないのでしょうか。また、おそらく、ひらがなの方が日本語を勉強している方にはなじみやすいと思います。

さいたま市にある人形の博物館は全国でも唯一の博物館であり、それがあつた所が岩槻なのだという順番、つまり「さいたま市人形博物館いわつき」の方が、世界への発信という点では良いかと思います。

ただ、もう一つの考え方として、さいたま市の事業として、岩槻の地場産業も含めて、ここに人形文化があるということ発信するのであれば、「さいたま市岩槻人形博物館」ということになるのではないのでしょうか。ローカルかグローバルか、どちらの方向性を取るのか、ということになるのかと思います。

林委員長：さいたま市の一施設でなく、日本あるいは世界に向けての施設であるということであると、グローバルな方向で考えていくのが一つのスタンスであると思います。地元、行政の立場から内藤委員はいかがですか。

内藤委員：現在、「市民会館いわつき」等がひらがな表記になっています。市内の方の利用が比較的多い施設はひらがなが馴染みやすいとは思いますが、市民会館やコミュニティーセンターの類似施設のような印象になります。博物館という文化施設ということなら漢字表記の方が、重みがあるように思います。

また、岩槻で生まれた者にとっては、漢字の方が馴染みやすく感じます。

林委員長：各委員から、それぞれの御立場で御発言いただきました。

委員長として、私の意見も申し上げますと、先ほどの是澤副委員長の御意見にあつたように、グローバルな視点、そして一般市民の方や利用される方々が言葉にしやすい名称であるということのポイントを考えていただければと思います。「さいたま市いわつき

人形博物館」や「さいたま市人形博物館いわつき」が良いと思いますが、あくまで個人的意見です。

各委員もさまざまなスタンスで御意見をいただきました。おそらく、さいたま市の庁内においても色々な意見が出ると思いますが、この委員会の意見も考慮にいれて、今後の検討を進めていただきたいと思います。

それでは、「(1) 報告 (仮称) 岩槻人形博物館の進捗状況について」、他に御意見はありませんか。

(特に意見なし)

(2) 議題 ア 「資料の調査・保存とプレ事業について」

林委員長：それでは議題に入ります。まず「(2) 議題 ア資料の調査・保存とプレ事業について」、事務局より説明をお願いします。

事務局より資料1に基づき説明が行われる。

林委員長：項目が多いので、いくつかに分けて御意見を伺いたいと思います。「1. 資料調査について」はいかがでしょうか。これから人形産業についての調査を行うとのことで、これは展示室1「さいたまの人形」のベースを作り上げるものです。

人形製作関係資料は、資料の写真に載っている物の他にも収集をしているのでしょうか。

事務局：寄贈していただき、複数件集まってきています。お預かりして調査させていただいている物もあり、今後寄託、あるいは寄贈していただける可能性もあります。

林委員長：資料については、是澤副委員長にアドバイザー会議で御指導いただいておりますので、一言コメントをいただきたいと思います。

是澤副委員長：現段階で、ある程度、質としては日本を代表する人形が揃っていると言えるのではないのでしょうか。日本人形に限っていえば、日本を代表して世界に発信できるだけのレベルは収集できたと思います。現在は、職人の製作道具、あるいは紙資料とか文献資料等の周辺資料を収集する段階に入ってきたということです。

ただし、開館に向けて質的にかなり充実しているからこそ、開館に向けてある程度の量が揃ったから今だからこそ、補完しなければいけない資料がみえてきています。現在、人形資料の収集が困難であるということですが、具体的に資料が揃っているからこそ、何が必要なのか、補充するべきものは何かがわかってきたということ、是非考慮して、善処していただければと。アドバイザーとしては、そのように考えます。

林委員長：コレクションが充実した内容で、ある程度揃ったから、かえって見えてくるほころびを、そういったモノ(人形資料)の収集、手に入れる算段ということですね。そういった対応が必要になっているという御指摘であると私は受け取りました。大きなコレクションを購入したので、なかなか新たな資料購入は難しいかとは思いますが。

是澤副委員長：補足して良いですか。私が申し上げたのは、積極的に資料を収集する必要があるという意味ではなく、ある程度人形が揃ったからこそ、足りない資料が見えてきて、そういう

ものがあつた時は、収集できるような対応を取られた方が宜しいという提案です。

林委員長：そういった中で、さいたま市の財源にも限りがある。確かに、是澤副委員長のおっしゃる通り、これから実際に展示をして、あるいは人形の研究をしていく上で、やはり必要だというものが出てくるのではないのでしょうか。

加藤委員：今の議題とは少しそれますが、今の岩槻で、居職という、人形の（製作工程のうち）ある部分ができるという職人がずいぶんやめられまして、製作道具が残っているのではないかと考えています。職人さんは、（道具に）あまり価値を認めていないのですね、もう捨ててしまうよと。

製作道具の一覧表があれば、その方々に持っていないかと聞く調査方法もあると思います。学芸員の方と相談しながらやればかなりひろっていくのではないのでしょうか。

林委員長：今の加藤委員のお話は、今後の資料調査の中でも活かしていけるとと思います。

大越委員：資料1にある製作道具を見ながら、これはいつ頃まで使われたのだろうと書いていました。職人さんたちの姿も、人形製作に使う道具も、これから良くも悪くも変化していくわけです。50年後、100年後のためにも、博物館ではそれをきちんと残していかなければいけないですね。

また、作品の方も揃ってきたと伺いましたが、基本的にコレクションに完成ということはありません。特に人形は頻繁に展示替えが必要ですから、同じタイプのを複数集めることも欠かせないですし、是澤副委員長がおっしゃったように、足りないところを埋めるようにしていくことが必要です。博物館がオープンしたら終わりということではなくて、収集に関しては予算も確保できるように努力していかなければなりません。この博物館は、未来に向けて人形の新しい価値観を作る役割があると思うので、そのためにも終わりのないコレクション形成というのが求められます。その辺りもよく認識していただければと思います。

林委員長：資料収集に関しては、目配り、心配りも必要です。それを積極的に手に入れる体制も、もう一度見直して作っていただきたいと思います。

それでは次に、「2. 収蔵品管理システムの構築」、「3. 修復について」について、何か御確認、御質問はございますか。

管理システムについては、事務局として一番使いやすいシステムを作っていただくしかないですが、県立近代美術館ではどのようなシステムを使われているのですか。

大越委員：県立近代美術館は早稲田システム株式会社の I. B. MUSEUM を使っています。早稲田システムは全国の博物館・美術館のコレクションのデータを管理しながら、各館の意見を聞いて少しずつ使いやすくしているので、今使うには悪くないシステムかと思っています。最近便利だった機能は、資料情報のなかに解説を入れておくと、それをスマホで呼び出して、展示室で見たり聞いたりするというもので、早稲田システムが顧客サービスとしてやっています。美術館では音は出していませんが、音声で聞くこともできます。今後、お金をかけないでそのようなサービスを進めることもできるのではないかと思います。

林委員長：管理システムというのは、内部の利用だけではなくて、教育普及にも使える等、多機能を考えて、選択していくことが必要になります。そういったことも十分考えて検討いただければと思います。

人形の修復については、これまでの委員会においても、人形の修復機能をこの博物館の大きな売りどころにする必要があるのではないかという話がありました。予算もきちんと配慮し、博物館・美術館がコレクションを後世に伝えていくのだということを、実績として残していただければと思います。この件、是澤副委員長はいかがでしょうか。

是澤副委員長：人形博物館の目玉の一つが、修復になるのではと思っています。全国に関連展示をする博物館はありますし、2月3月は、ひな祭りの展覧会をどこでもやっていますが、文化財としての人形を修復する機関はありません。岩槻が人形修復の部門を持っているということは、日本の中で唯一無二、しかも公立の博物館で運営して、それなりの実績があるとなれば、さいたま市だけではなくて、全国的、いや世界的にも貴重な博物館になりうる可能性があると思います。是非、この機能は充実させていただければと思います。

林委員長：その他、「4. プレイベント」に報告がありましたが、29年にはまた「さいたまの人形づくり」について展示するのですね。

この「(2) 議題 ア資料の調査・保存とプレ事業について」はよろしいでしょうか。

(特に意見なし)

(2) 議題 「イ 地域連携について」

林委員長：次に、「イ 地域連携について」事務局から説明をお願いします。

事務局より資料2に基づき説明が行われる。

林委員長：それでは、加藤委員の方から補足説明お願いしたいと思います。

加藤委員：説明させていただきます。

まず、三月の上巳の節句について。岩槻でも毎年開催しているまちかど雛めぐりは全国で75ぐらいの開催地があります。3年ぐらい前に、岩槻で「全国雛めぐり公開サミット」を開催しました(平成25年2月24日「第1回全国雛めぐり公開サミット」。日本各地から10団体が参加)。その後、立ち消えになって、止まっています。しかし、この五節句をユネスコの世界無形文化遺産に登録しようという活動が、4年ぐらい前から起こっており、「日本の節句文化を継承する会」が中心となって活動しています。

岩槻でも、「五節句のまち岩槻」というキャッチフレーズで、五節句全てをPRしようということになりました。(端午の節句では)武者人形、五月人形は飾っていますが、まちにイベントはありませんでしたので、お子どものこいのぼりくぐりと、岩槻人形協同組合のご厚意で兜・鎧・太刀・軍扇をお借りして、記念撮影をするイベントを行いました。人形だけに固定しないイベントをやることで、人形博物館に対する関心の持ち方が広がるのではと考え、実施しました。

さらに、七夕のイベントをやるということになり、信州松本の七夕雛をモチーフにしたものを制作しました。松本の七夕雛は武家社会ではなく民間で流行していた風習です。

コーナーで人形と写真などをPRとして飾っています。そして、クレセントモールで笹飾りをやろうと計画しています。まだ決定していませんが、素麺流しや千代紙の雛人形作りなどのイベントを行い、誘客に結び付けようと検討しています。

また、10月には「やまぶきまつり」という、1日で5万人の来場者があるイベントがあります。そこで、NPO法人岩槻・人形文化サポーターズでブースを借りて、人形博物館のPR活動を行いたいと考えており、現在、御支援をお願いしているところです。今まではまちづくり市民協議会のブースだったのですが、今回は初めてサポーターズのブースを設置したいと思います。

それから、重陽の節句のイベントは、これは第4回目になります。前は認知されたのか、清水市長にもお越しいただきました。重陽の節句のイベントは、岩槻が全国でも岩槻が唯一、初めてだと思っていたら、昨年栃木でイベントが開催されたようです。

(五節句の中で)一つ残ったのが、人日の節句、七草粥の日です。これが一番難しく、七草粥の中に人形の形のお麩を入れたらどうかという案が出ており、販売も視野に入れて検討しています。

次のサポーターズ例会では、五節句をもう一度見直す予定です。行政や学識経験者の皆さんの御指導を得ながら、人形博物館ができるまでの、さらに開館後の力になればいいと、このような方向性を持って活動していきます。以上でございます。

林委員長:ありがとうございました。地元で、様々な団体あるいは市民の方々と連携を取りながら、工夫をこらした事業展開をさせていただいています。この件に関しては地元岩槻の行政的なバックアップもいただきたいと思います。岩槻の行政のトップとして、内藤委員からも一言補足説明していただけますか。

内藤委員:人形・文化サポーターズに加藤委員には、岩槻の人形文化、また城下町文化について熱心にPRする活動を続けていただいております。また、岩槻まちの戦略会議、これは商工会議所等の若手メンバーが中心ですが、既存の岩槻まつりやイベントだけでなく、新たな賑わい、まちの活性化と言いますか、盛り上げていこうということで、若い人たちも動き出してきています。

市民の皆さんが活動して、盛り上げていこうということが、私たち行政としても非常にありがたく思っています。また、我々としても皆さんが活動しやすい環境を作っていかなければいけないということで、加藤委員とも色々と情報交換しながら、お手伝いをさせていただいております。人形博物館を盛り上げる意味でもそうですし、五節句は人形に端を発した昔からの行事ですので、それを復活させることで岩槻をPRしていきたいと思えます。

林委員長:財政的にはなかなか厳しいと思いますが、色々なスタッフ面からもこの活動と人形博物館について御支援をいただくとありがたく思えます。

是澤副委員長:五節句に注目するのはとてもいいと思えました。昔、栃木市に「とちぎ蔵のまち美術館」というのがありまして、その展示の監修をしたことがあるのですが、ここも後の雛(重

陽の節句に雛人形を出し、虫干しも兼ねて飾る)をやっています。善野家(栃木の豪商釜喜の4代目善野喜兵衛や叔父の善野伊兵衛)という歌麿の後援者であった家に雛があることから始まって、栃木の山車人形の展示まで広がりました。

9月の後の雛の時に雛人形をまちに飾るということは殆どなかったことなので、重陽の節句というのは、雛人形を2回アピールできる良いチャンスだと思います。それと七夕雛の松本などとの地域連携など、人形を通して連携というものが広がっていくと良いと思いました。

大越委員：巷で、和菓子職人さんが、3種類くらいの季節の和菓子を目の前で作ってくれるというお店が大変な人気だと聞きました。そういう試みを各節句でやってみるのも一つかと思えます。また、私自身が参加して面白かったのは、ある大学の短期連続講座で、日本文化の講義だけでなくお菓子や簡単な懐石料理がでるというものです。参加料は少々高額ではありましたが、そういうものに投資をするという考えの方も少なくありません。子供向けからハイカルチャーなものまで、色々な催しを増やして行って、継続していくと、その催しがきっかけで岩槻に来たり、リピーターの方も出てくるのではないかと思います。

林委員長：こうやって色々な事業を展開されて、我々日本人が忘れがちな季節、和の伝統行事、それを人形のまち岩槻で定着させるのは、非常に意義があることだと思います。

この人形博物館について、岩槻に人形博物館が開設されるということは、場所としては非常にふさわしい場所である。ただ、正直申して、地元の方々も、もっと岩槻というものを自分で理解して盛り上げていかないと、ますます沈滞してしまう状況にあると思います。

そういう意味では人形博物館は大きな起爆剤になるので、加藤委員が展開されている事業、地域の戦略会議での商工会の方々、若手の方々、そのような意識を持っている方々が集まって、一体となっていけば、岩槻というまちは、人形だけではなく盛り上がるでしょう。

その盛り上がりの中で、人形博物館もやはりそれなりの光を輝かせられるのではないかと思いますので、また引き続き、是非御尽力いただきたいと考える次第です。事務局の方も今まで働きかけをして、一つの芽が出て、根を下ろしはじめたところで、それは十分理解されて、バックアップしていけるような体制をとっていただければと思います。

伴戸委員：私は人形協同組合として出席していますので、この人形博物館と人形協同組合の連携というのもやらせていただきたいと思っています。一昨年ですか、是澤副委員長のご紹介で、文京大学と産学連携の取り組みを行い、何とか成果が出てきて、もう一年続けることになっています。さきほど大越委員がおっしゃっていましたが、この博物館をきっかけにして、岩槻の観光のために協力するということもありますし、新しく良いものを作りたいと考えています。

林委員長：伴戸委員から、業界の中に立った今後の展望について意見をいただきました。地域連携

の中で展開していく事業も、さらに新しいプログラムを考える必要が出てくるかもしれません。どのように地域の連携を地道に展開していくか、人形博物館の開設を一つの支えにして展開できればと考えております。「イ 地域連携について」について、他に何か確認事項とか、御提案ございますか。よろしいですか。

(異論なし)

林委員長：「(2) 議題」についても了解いただきました。

4 その他

林委員長：次に「4. その他」ですが、委員の方々、ございますか。

(特に意見なし)

林委員長：それでは事務局からお願いします。

事務局：次回の委員会の開催について、建設が12月の着工を目指していきまして、整備の進捗状況、それからイベントもございますので、そういったものを議題に開催したいと思っております。時期につきましては追ってご連絡いたしますが、1月または3月を予定しております。その頃は人形の展示で忙しいかと思いますが、よろしくをお願いします。

林委員長：途中経過を各委員に報告するというところで開催していただければと思います。各委員もお忙しい中、どういう状況で進んでいるのかと、委員会に関わって頂いて関心があることだと思っております。

加藤委員：よろしいですか。人形・文化サポーターズもまだ非力でございまして、委員会の先生方、並びに準備室や区の御支援、御指導をこれからもよろしくお願ひいたします。

林委員長：今後、委員会としてもできるだけサポーターの皆さんのお手伝いをしていきたいと思ひます。

事務局：先ほどの報告で進捗状況のスケジュールで12月に着工とありますが、その前に起工式を行うことで進めており、決まりましたら皆さま方にご案内させていただきますので、是非お越しく下さい。皆さまよろしくお願ひいたします。

林委員長：それでは会議を終わらせていただきます。事務局にお返しします。ご協力、ありがとうございました。

5 閉会

事務局より閉会が告げられる。

—以上—